



2007年7月25日 Vol.348



「三・色・感」事業 第二弾!!

みはら

TEPPAN倶楽部

始動!

～三原のお好み焼きを地域ブランドへ～

本年度、協働委員会(作田 佳史 委員長)では、三原の特色(食)を市民・企業・行政が協働での活動により、まちの特色を活かして、三原市の一体感を高めてゆくために「三(さん)・色(しょく)・感(かん)」というテーマを掲げ活動しております。

第一弾では「地産地消」をキーワードとして協働でまちづくりを実践されている講師をお招きし、講演をして頂きました。今回、第二弾として「三(さん)・色(しょく)・感(かん)」を実践してゆくために、市民の皆様身近な食べ物であり、地域色豊かな食の一つでもある「三原のお好み焼き」に注目し、それを市民・企業・行政の三者で盛り上げてゆこうと考え、～三原のお好み焼きを地域ブランドへ～と題し「みはらTEPPAN(てっぱん)倶楽部(くらぶ)」を発足いたしました。

先日6月27日に開催した準備会議では、市民・企業・行政や市内のお好み焼き屋などの関係者12名が集まり、この会の趣旨や今後の計画等、様々な立場の意見を交換しながら和やかな雰囲気の中で話し合いをすることが出来ました。

今後も三原のお好み焼きを地域ブランドにしてゆく為に、11月に開催される浮城祭り等へのイベント参加も視野に入れ、月一回程度のミーティングを開催し「地域ブランド」へ発展させてゆく為に活動してゆこうと考えておりますので、興味のある方は是非参加して下さい。

皆様のちからで私たちの住むまち"みはら"を盛り上げてゆきましょう!



みはらTEPPAN倶楽部 準備会議

■お問い合わせ■ (社)三原青年会議所 協働委員会 作田まで

(社)三原青年会議所 創立45周年記念事業

島田洋七講演会開催!!

「笑顔が未来を切り拓く!!」 ～幸せは、こころのあり方で決まるんだ!～

本年度、(社)三原青年会議所は創立45周年を迎えました。日頃より、私たちの活動を支えていただいている市民の皆様への感謝の意を表す記念事業として、6月25日(月)、島田洋七講演会を開催し、約800名もの方々にご来場いただきました。

開催当日、講師の島田洋七氏は風邪気味で少々体調が優れなかったようですが、そこはさすが一流のお笑い芸人!90分間笑いの絶えることのない講演となりました。多感な少年期に不安を抱えながらも「佐賀のがばいばあちゃん」と共に過ごしたことで学んだことを、語っていただきました。



島田 洋七氏



観覧風景



講演前、青年会議所メンバーの最終打合せ



開演前風景



講演風景

御礼



講崎部会長

講演会終了後、ご来場いただいた市民の皆様より感謝の言葉をいただきました。今回の講演会のテーマ「笑顔が未来を切り拓く!!」をご理解いただき、さらに、市民の皆様が未来への可能性を感じ、明るい豊かな心を持つ人、家庭、まちを創るきっかけとなったのではないかと考えております。今後も三原が明るい豊かなまちになることを目指してまいりますので、尚一層のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

みたかきいたか

もうすぐ三原市で一番盛り上がる季節がやってくる。そう、言わずと知れた「やっさ祭り」だ。今年で32回を数えるこの祭りは、中国地方最大の夏祭りといわれ毎年30万人を超える観客動員がある。◆昨年、徳島の「阿波踊り」を見物に行った時に驚いた

ことがあった。100万人はいるかと思われる会場に、スタッフの人数が非常に少ないにも関わらず、各会場でスムーズに踊りが流れていたことだ。言い換えれば、踊り手も運営側と共に祭りを創ってゆくという意識の表れではないのだろうか。まさに全国区の祭りとなった要因を垣間見た瞬間だった。◆我がまちの「やっさ祭り」に目を向け

てみるとどうだろうか。裸同然で踊る者、酔っ払って踊る者、スタッフの指示に従わない者、挙げればきりが無いほど浮かぶ。子ども達の参加も危険すぎて敬遠している要因のひとつだと感じる。やっさ踊りを練習し、運動会等で披露している学校が多いと聞くと、現実には学校単位、町内会単位での参加は減少傾向にあるなど、今後不安

を感じてならない。◆「三原ブランド」＝「やっさ祭り」が全国区となってゆく近道だとすれば、運営側と踊り手、そして観客が一体となって創りあげてゆかなければ叶わぬ夢に過ぎないだろう。住民が主体となって我がまちの進むべき道を真剣に議論し、未来を担う子どもたちの為に今一度立ち上げる必要があるのではないかと。